

僕らの魂が地球に 放り込まれた理由

7人の神様に聞いてみました




石田久二

KADOKAWA

この本は、主人公「ボク」の心に棲んでいる「7匹の鬼」を
退治するためにやって来た「7人の神様」の物語です。

「神様」が、「鬼」の正体をどんどんあばきます。

「鬼」って実は、あなたの心にドーンと居座っています。



放っておいたら、
その鬼、暴れるよ。

第1章 わしの言うことを聞けば
ラクして大金が手に入るんじゃない！
〜すべては金狐神さんとの出会いから始まった〜

満月に財布をかざすと
お金が儲かると聞いて素直にやってみようよ…… 008
神社で出会った酔っ払いが最初の神さまだったなんて！
ちよつと気になる鈴木さんから「加藤塾」に誘われたよ！
ボクは「加藤塾」に入って妄想通貨を買ってしまったよ！
妄想通貨がどんどん上がる！
このままだけはボクは億万長者だ！
妄想通貨バブルが崩壊してしまった！
神さまの手先になれば願いが叶うのか！
そもそもお金は妄想だって！
加藤の尻は七三分けなのか！
煩惱がフオグラだって！
ボクなんか生きてる価値もない…… 050

第2章 君の心に「鬼」がいる！
7匹の悪鬼軍団とは？
〜守神vs失鬼…悲しみを乗り越えろ〜

いじめられっ子だったボクが「三途の川」にいる…… 054
大男が積み上げた石をなぎ倒してるぞ！
小さな少年が大男を追い払ったぞ！
ボクのお母さんに向かってバカはないだろ！
少年の正体は、まさかのあの有名な！
ボクのお母さんが死んでしまった…… 074
お母さんがバットとグローブを買ってくれていた！
子守神くんの新しい仕事って…… 079
ボクが「7匹の悪鬼軍団」と戦うだって！
ボクがお母さんに一生分の恩返しをしただって！ 091

第3章 お前は弱虫じゃない！
我慢する必要なんかないんだ！
〜怒々神vs奪鬼…大切なものを守るんだ〜

お母さんの100万円が消えて、
部屋にヤクザがやってきた！ 096

第5章 他人に期待なんかするな！
君は変わりたいんだろ！
〜知恵神vs認鬼&変鬼…ついに離陸する時がやってきた〜

残業を断る一大決心に挑むボク
ただならぬ凄腕セールスマンがやってきた！ 176
ボクが残業をやりがるのも鬼の仕業だった！ 183
残業を断るとボクは居場所を失うかも……でも！ 189
ボクの人生は一気に、目まぐるしく変わり始めた！ 195
「変わりたい」とは、自分以外の周りを変えたいだけ？ 199
変鬼を退治するのに、そんな方法で！ 204
ボスの「ムチャブリ」って……！ 208
ユイマさんのお見舞いに行って悟ったこと？ 209
お節介でもない！それが菩薩行だから！ 211

第6章 お主！この世界は思い込みが
100パーセントなんだよ！
〜未来神vs時鬼…宇宙の真実に迫る〜

本当のことを言うと、
「思い込み」が100パーセントなんだって？ 216

第4章 一切の価値判断のない
真の「自由」に旅立とう！
〜叶女神vs善鬼…苦しみは善の心に宿る〜

スナックで1万円の財布を買わされてしまったよ！ 134
ママさんからのお金のレッスンは続くよ！ 142
ママさんから「汚いシャツ」を脱げ」と言われた！ 145
まさかまさかの叶ミカが！ 148
観音菩薩は悪い奴の味方なのか！ 何言ってるんだ！ 152
どうして悪人が幸せになって 159
ボクみたいな善人が不幸になるんだ！ 162
なんで善でいることが鬼になるんだ！ 166
世の中に善悪はない？ 空だって？ 空ってなんだ！ 166

第 1 章

わしの言うことを
聞けばラクして大金が
手に入るんじや！

〜すべては金狐神かがみさんとの
出会いから始まった〜

56億7千万年間も生きてるんだって！

箱の中の猫は「生きてるけど」死んでいる？」

尻が七三かどうかも見ろまでは同時に存在するなんて！

光の速さを超えるものがあるだって？！

「阿頼耶識」に入るとすべてが実現するだって！

考える前にやれだつて！

何度もしつこくやれだつて！

強烈にやれだつて！

感謝は最大の武器だつて！

「そもそも時間は存在しない」だつて？！

さらに阿頼耶識の正体が明らかに！

第 7 章 生きる意味とか知りたいか？ ほんとのこと教えてやるよ！

〜親分神vs有鬼…ついに7匹目の悪鬼だぜ〜

あれから半年、200万円の借金がすべて消えた！

ノリじや！ すべてはノリじや！！

みんな〜！

宇宙一偉い神さまは、なんでも知っている？

いよいよラスボス鬼の登場か！

解説ノート
〜7人の神さまについて〜

1人目の神さま 稻荷大明神

2人目の神さま 地藏菩薩

3人目の神さま 不動明王

4人目の神さま 観音菩薩

5人目の神さま 文殊菩薩

6人目の神さま 弥勒菩薩

7人目の神さま 大日如来

おわりに

【参考文献】

本文デザイン 小口翔平、岩永香穂 (Tobutune)
イラスト 祖父江ヒロシ

満月に財布をかざすとお金が儲かると聞いて素直にやってみようと……

「石井さん、満月にお財布をかざすとお金が儲かって話、知っています？」

ボク、石井は34歳にして独身のフリーター。

1浪後に地方のFラン大学に入り、卒業して先物取引の会社に一度は就職したものの、1カ月で辞めてしまった。入社前はあんなにニコニコしていた部長が、入社後の研修から鬼に豹変したんだ。

1カ月間、毎日、ゴミだのクズだの言われ続け、先物取引の外務員登録資格試験に失敗すると、ほかの不合格者とともに一列に並べられ、「私はバカです！ 会社のお荷物です！」と8時間も叫ばされ続けた。喉が潰れて、翌日は何も言わずに会社を休んだが、会社からは何の連絡もない。その翌日からも、そのまま一步も家から出ないでいると、1週間後に5万円程度の給料が振り込まれて終わり。

それ以来、まともに就職することもなく、アルバイトを転々とした末、行き着いたのが布団や衣服に針などが残っていないかを検品する仕事。バイトながらも社会保険に入れてもらっているのが幸い、辞めることもなく、ここで10年が経とうとしている。

給料は手取り16万円。家賃と生活費でほとんどなくなるが、今さら転職しても待遇がよくなることはないだろうし、第一、先物取引での1カ月間がトラウマで、変わる勇気もない。ただ、黙々と検品するだけの仕事が性に合っている。

たまに残業はあるものの、定時に帰ったところで恋人も友だちもおらず、なんとなくスマホ片手にゲームで時間をつぶして1日が過ぎていく平穏な毎日だ。

ランチタイムの休憩室で、いつもの500円弁当を食べていると、経理の鈴木さんが、突然、冒頭のような変なことを言い始めた。鈴木さんは新卒で入社してきた24歳の正社員。ボクのほうがキャリアは長いけど、立場は鈴木さんのほうが上だから思わず敬語になる。ボクは聞き返した。

「満月に財布？ なんですか、それ？」

「わたし、最近、スピリチュアルな話にハマっちゃってて、いつも読んでいるブログに書いてあったんですよ〜」

「ス、スピリチュアル？ それってどういう……」

「昔から占いか好きで、前世とか守護霊のテレビ番組とかもよく見ていたんですけど、最近、あまりやらないじゃないですか。でも、ブログとかにはそんな話を書いて

いる人がたくさんいて、人気のブログを今、10個くらい毎日読んでいます〜」
「あゝ、占いとかですか？」

そういえばこないだもここで鈴木さんにタロットカードで占ってもらった。「愚者(The Fool)」というカードが出てきて、ピッタリだと笑われた。一瞬、ムツとしたけど、それを察した鈴木さんは、これは素晴らしいカードなんだとフォローした。自由奔放な生き方を意味するらしい。確かに、これでも会社以外に束縛も受けず、それなりに自由気ままに生きているボクとして、一応は納得した。

その時はたまたま誰もいなかったが、鈴木さんは鈴木さんで、周りにパートナーとかがいても、屈託なくテレビや占いの話などをよくしている自由な人だ。誰からも好かれる性格で、ボクも密かに好意を持たなくもないが、妄想の世界でしか彼女と親密になることはない。

それにしても、満月に財布って……。

「石井さん、それがですね、わたし先月の満月の日にやってみたんです。そしたらなんと翌日に100万円以上の臨時収入があつてビックリしちゃった！」

「え！ マジっすか！ 100万円！ どうやって手に入ったんですか!?!」

「ごめんなさい、それは教えられなくて……。でも、この話、身近な人にシェアする

と効果が倍増するってブログに書いてたから、おすそ分け！」

100万円はうらやましい話だ。満月に財布をかざすだけで、そんな大金が入ってくるのなら、どうせタダだしやってみてもいい。

「で、次の満月はいつですか!?!」

「今夜ですよ！ 月のエネルギーがお財布に吸収されて、満月だけに『満期』になってお金が入ってくるって。今日はわたし、『満月女子会』っていうサイトで知り合った女の子たちとお財布をフリフリしに行くんです〜」

鈴木さん、大丈夫かな。ちょっとおかしなところもあるけど、ボクだってお金はほしい。毎月、満月から収入が得られるなら、会社だってすぐに辞めてやる。

ラクしてお金を儲ける方法がないかと、昔はビジネス雑誌なども買って読んでいたけども、最近、その手の雑誌も次々と廃刊になって読むこともなくなっていた。

お金がなくても安い弁当とスマホゲームでなんとか過ごせるし、同年代の多くの人たちのように、結婚や子育てができる身分でもない。将来のことを考えるとブルーになるが、ネットの世界にはボクと同じような境遇の人をたくさん見つけることができるし、そのうちなんとかなると思うしかない。

そもそも今の時代って、スマホ一つあれば、たいていのことは満たされてしまう……。

ボクは今まで彼女がいたこともないし、ナンパする度胸もない。フーズクなんかもつてのほかだ！ でも今はネットや妄想の世界でささやかな欲望を満たすことができる。実際、満たされた後の賢者タイムだけは、ボクは勝ち組だ。お金も使わずに、しかもこんなに自由でいられるのだから。

それでも、結婚して、子育てして、マイホーム建てて、リア充している同年代の活躍を見ると鬱に入る自分もいるし、可愛い彼女を連れてくる若者などとすれ違おうと、ふっと虚しくなることも。

これでいいとは思わないけど、人生を変える勇気も根性もない。アパートと会社の往復で、恋人はスマホ。それがボクには似合っていると自分に言い聞かせるしかないんだ。

だけど、**お金があれば人生変わるだろうな。**

その日、鈴木さんは定時に退社して「満月女子会」のオフ会に行ってしまった。ボクも定時には会社を出たけど、なんとなくまっすぐ帰る気がしない。鈴木さんは満月に財布をかざして100万円をゲットした、という話が心にひっかかっていた。

そんなウマイ話があるものかと半信半疑ながらも、失うものはないし、素直にやつ

てみてもいいな。どっか人通りのない場所でやってみよう。

鈴木さんから聞いたところ、財布をかざすにはちよつとしたやり方があるようだ。

- ・満月の時間を挟んだ3日間は有効
- ・月の見えない日中でも、曇りでも雨でも月のエネルギーは常に降り注いでいるから、いつやつても大丈夫
- ・でも、やっぱり満月の日の夜に、直接、月に財布をかざしたほうが効果的
- ・財布からレシート、クレジットカードなどお金が出ていくことを示すものはすべて抜き取る
- ・財布は空っぽか、お金だけが入っている状態にする
- ・月の出ている空に財布をかざし、フリフリする
- ・「お月さま、今月もたくさんの臨時収入をいただきました」と完了形で唱える

どこがいいかな。

自宅の最寄り駅の3つ前の「大稲荷駅」がなんとなく自分と呼んでいるような気がして、降りてみた。なるほど、「大稲荷」の名だけあって、神社や祠ほこらのようなものが



たくさんある。家の近所にこんなのがあったなんて。ここから自宅まで歩いて30分だ。財布をフリフリとかざすための場所を探しながら歩いていると、古墳か何かだろうか、こんもりと盛り上がった小高い丘がある。あそこがいいな。ボクはその丘に登り、周囲を見渡してみた。何の変哲もない住宅地が広がるだけ。今日は満月なので、遠くまでよく見渡せる。

財布を取り出し、言われた通りにレシートやカードを抜き取ってポケットに入れ、いざ、財布を満月にかざそうとしたその瞬間！

ピカ!! ゴロゴロゴロ〜!!

大きな音とともに落雷で辺りが真昼のように明るくなり、ボクは気を失った。

神社で出会った酔っ払いが最初の神さまだったなんて!

ここはどこなんだ!?

鳥居があって、土俵があって、さい銭箱があって、鐘のようなものがある。どうやら神社の境内のようだ。だけど、見覚えはない。昼間のように明るい、周りには人っ子一人いない。

えーっと、ボクは会社を出て、家の近くの駅の3つ前で降りて、歩いていたら小高い丘があったので登ってみた。そこで財布を取り出して夜空にかざそうとしたら、雲一つない満月の夜に、突然、落雷が響いたんだ。

そこまでは思い出したが、いったいここはどこだ? なんで神社なんだ! 気味が悪くなって鳥居の外に出ようとした時、声が聞こえた。

「おい!!」

振り返ると、1人の老人がいきなりそこにいた。古ぼけた浴衣を着ていて、顔が赤い。酔っぱらっているようだ。

「ここに何しに来たんだ!」



そんなのこつちが聞きたいよ。

「いや、何しにって、気づいたらここにいたんですよ。ここはどこなんですか!?!」

「はっはっは! そうか! 貴様のことか! うちのボスがな、『教えてやれ』って言うもんだから、待っておったんだ」

「おたくはどなたなんですか!?!」

「わしか? わしの名は、いな……………、いや、『金狐神』と呼んでくれ」

かこがみ? それは苗字なのかな? 変わった名前だけど、それはともかく、いったいここで何をしているのか、そもそもボクはどうしてここにいるのか?

……これがボクと「7人の神さま」との最初のコンタクトとなったのである。

ボク いや、金狐神さんはここで何をしていますのですか? どうしてボクを待っていたんですか? ボスって誰なんですか? そもそもここはどこなんだ!!

金狐神 そんな矢継ぎ早に聞かれても、ひと言では答えられんよ。わしはここで貴様を待っていた。酒を飲みながらな。わしのボスが、貴様が来るのを待てと言ったからじゃ。で、なんだっけ?

ボク ボスって誰なんですか!

金狐神 ボスは……………、ボスとしか言いようがないのう。

ボク じゃあ、そもそもここはどこなんですか!?

金狐神 ここか。ここはのう、「アノーヨ」と呼ばれる場所じゃ。ケツケツケ!

ボク アノーヨ? あの世? あの世ってあの世ですか?

金狐神 いや、ここのはアノーヨじゃ。正確に発音せんとな。

ボク その、発音とかどうでもよくて、ここはあの世、もとい、アノーヨ…って所なんですか?

金狐神 発音をおろそかにしちゃいかんよ。貴様の世界でも食う「あめ」と、空か降ってくる「あめ」は違うものじゃろう?

ボク そうだけど、じゃあ、アノーヨって何なんですか!? ここはどこなんですか? も、もしかしてボク、死んじゃったの?

金狐神 そうじゃ。貴様は死んだ。いや、そもそも貴様は生きとりやせん。自分で自分を殺してしても、とっくの昔に死んだるわい!

ボク え? 自分で殺した? 死んだるって、どういうこと? だって今日も会社で仕事して、鈴木さんと話して、そうだ、満月に財布をかざす話を聞いて、ボクもやってみようと思ったんだ。それで、いつもと違う駅で降りて歩いていたら、丘があつて……。気がついたらここにいた。

金狐神 アノーヨへようこそ! せっかくだから、まあ、呑まんかい。

ボク 酒なんか呑んでる場合じゃないですよ! こんなじいさんと間接キッスなんて嫌だし……………。

金狐神 ん? なんかつたか?

ボク いえ、とにかく呑んでる場合じゃないんです! ボクはお家に帰りたい! せっかく来たのだから、急がんでもよからう。わしは貴様を待っていたんじゃないから。

ボク そう! それ! どうしてボクを待っていたんですか?

金狐神 だからな、ボスが「教えてやれ」と言うもんだから。

ボク じゃあ、何を教えてくれるんですか?

金狐神 聞かれたことはなんでも教えてやるよ。

ボク だったら話は戻りますけど、アノーヨってなんなんですか?

金狐神 ……もっと簡単な質問してくれるか?

ボク なんでも教えてくれるって言ったじゃないですか!

金狐神 物事には順序があるのじゃ。アノーヨのことを知るのには貴様にはまだ早い。わしはそうじゃな、「商売繁盛」が専門じゃから、金儲けのことだったらすぐに答えられるわい。貴様は金儲けのことを考えて歩いていたんじゃないのか?

ボク そうだけど、今はもうお金のことなんて。ボクは早く帰りたいんだ。死んでいるなんて嫌だ! 両親もまだ生きてるし、ボクだって結婚もしてない、彼女だっていないし、スマホゲームばかりして、やりたいこと何もやってないんだ!

金狐神 ほう、「やりたいこと何もやってない」って言うたな。貴様に「やりたいこと」なぞあるのか? スマホゲームして、スマホ片手に妄想の世界で自分

を慰めて、十分やっているんじゃないのか？

ボク

いや、そんな。スマホのために生まれてきたんじゃないし。ボクだって可愛い彼女も欲しいし、結婚だってしたい、親孝行ももっとしたい！

金狐神

そうか。では貴様が「やりたいこと」をやるには、何が必要なんじゃない？

ボク

やっぱり、お金ですよ！ お金！

金狐神

だったらわしの出番じゃないか！ なんでも聞いておくれよ。

ボク

どうすれば、お金をたくさん稼ぐことができますか？

金狐神

いい質問じゃ。働け！

ボク

働けて……、ボクも毎日働いていますよ。それでも結婚して、マイホームを建てたりなんて、ボクの給料じゃ無理なんです。そもそもボク有能力じゃこれが限界。それじゃあ、答えにならないですよ！

金狐神

そうか、すまん。わかったわかった。貴様はたいして働きもせず、ラクして大金を手にしただけじゃな。貴様の世界はほとんどがそうじゃ。そんな連中、いつもわしのところに拌みに来る。商売繁盛、商売繁盛、っておかた商売らしい商売もしたらんのかな。

一応、「働け」って言って帰すのだけど、時々、ご褒美をくれてやるのじゃ。

例えば「宝くじ」ってのがあるじゃろ。あれはわしが発明したもんで、ラクして大金を手にしたって連中のささやかな願いをちょこっと叶えてやるために作ったんじゃない？

ボク

それです、それ！ 宝くじで3億円、いや、1億円でも当たれば「やりたいこと」ができるんです！

金狐神

だったら、その「やりたいこと」ってなんじゃ？

ボク

それは今から考えるけど、お金があれば彼女もできるし、結婚もできる、1億円あればマイホームだって建てられる。

金狐神

ほう。それが貴様の「やりたいこと」なんじゃな。彼女作って、結婚して、マイホーム建てて。

ボク

それだけじゃないかもしれないけど、まずはそれです。とりあえずお金なんです！

金狐神

わかった。じゃあ、教えてやろう。ラクして大金を手にするには「加藤」じゃ！ 加藤で大金が手に入る！

ボク

え？ 加藤って人の名前ですか？ それをどうすればいいのですか？！

金狐神

それだけ知れば十分じゃ！ さあ、行け！